

「大分県立芸術文化短期大学キャンパス整備基本構想」の概要

1 趣旨

- 築後40年を経過した施設は、老朽化・狭隘化が著しい。
- 人口減少社会において、学生確保のための魅力あるキャンパスづくりが課題。
- 平成26年3月に報告された「大分県立芸術文化短期大学のあり方について」に基づき、芸術文化の進展や地域社会の発展に寄与できる人間性豊かな人材の育成が図られるキャンパスを整備する。

2 主な整備内容

- 【新 築】 音楽ホール棟・・・福利厚生施設（学生食堂）を併設
- 【建 替】 芸術デザイン棟・・・デザイン棟と芸術棟を解体して建替え（合築）
- 【改 修】 音楽棟、美術棟（一部増築）他
- 【その他】 交流広場、シンボルロードの整備

3 整備の特徴

- 300人程度が収容可能で多機能な音楽ホール棟
- 芸文短大生と芸術緑丘高校生の学生交流や短大生同士の学内交流の場となる福利厚生棟（学生食堂）や交流広場
- 近年のカリキュラムの変化に対応し、実習室を多く備えた芸術デザイン棟
- 正門から音楽ホール棟に続くシンボルロード

4 整備主体

公立大学法人 大分県立芸術文化短期大学（県と共同で推進）

5 全体スケジュール

平成27年度から 整備着手（基本設計、実施設計、仮設校舎建築開始）
平成30年度まで 主要施設整備完了（芸術デザイン棟、音楽ホール棟、福利厚生施設）
平成32年度まで その他の施設整備完了

【問合せ先】
政策企画課企画調整班 角淵(スミヅチ)、高木
097-506-2028